

【マイコプラズマは細菌？】



400 μm

はじめに

マイコプラズマってよく聞くけど、肺炎？乳房炎?? どんな病原体なのか、ぱっと私も答えられないことがあったので、まとめてみようと思います。

マイコプラズマとは

細菌の一種ですが、少し特殊です。

- ・細胞壁がない
- ・小さい(直径 0.2-0.8 μm)
→一般細菌の約 1/3
- ・形を変えられる



発育に約 1 週間とかなり

時間がかかります。

粘膜表面に寄生しており、宿主の状態の悪化に伴い、発病します(形を変えて身体に潜むことができます)。伝染力が強いです。

感染動物との接触による感染が多く、飛沫を吸入することによる空気感染もあります。

マイコプラズマ性肺炎

多頭飼育されている若齢哺育牛から育成期の子牛に多発し、ウイルス・細菌等との混合感染や二次感染で肺炎を悪化させます。1-2 ヶ月後には廃用または死亡となることが多いです。

血液を介して中耳炎(耳が垂れる)、関節炎にもなります。もし同じ群で呼吸の気になる牛がいる、耳垂れや足が痛い子牛が多発した際にはマイコプラズマを疑った方がいいかもしれません。特に中耳炎を放っておくと、脳神経まで炎症が起き、起立困難まで至ることがあるので、早期発見を心掛けましょう。



マイコプラズマ性乳房炎

発生するとすれば、

子牛の時にマイコプラズマに感染した初産牛(血液を介して乳腺へ)・感染した牛の導入・肺炎子牛の鼻汁等から人が搾乳牛に伝播・搾乳中に汚染乳汁がミルカーを介して伝播・外見上健康な牛の呼吸器や生殖器に潜んでいるマイコプラズマが排菌されていて、接触感染

等が考えられます。

伝染力が強く、通常の培養検査では検出されず、効く抗生物質も限られるため、発見が遅れ、泌乳停止に至ることもあります。

治療

それぞれの症状に対する治療が必要となります。早期発見を心掛け、獣医師に相談しましょう。以下にマイコプラズマに効く抗生物質を紹介します。

- ・マクロライド系：ドラクシン、タイラン、ミコチル
- ・テトラサイクリン系：OTC10%、テラマイシン LA
- ・キノロン系：バイトリル、マルボシル、アドボシン

等があげられますが、農場によって効く効かないがあるので注意してください。ペニシリンやセファゾリンは効きません。

子牛への対策

発生する可能性が高いのは、哺乳ロボット等で多頭飼育している場合だと思います。

呼吸器が触れ、接触しやすい、乳首・水槽・餌場・壁等を清潔に保つ必要があります。

また、飼料に抗生物質を添加するという方法もあります。

さいごに

今回はさらっとまとめてしまったので、対策等に関しては、次回詳しくまとめたいと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

小方可奈江



Total Herd Management Service